

杉本達夫教授略年譜

- 一九三七年一月一七日 父榮太郎（一九〇一〜四四）母榮（一九一〇〜二〇〇四）の第四子（次男）として京都府與謝郡桑飼村（現加悦町）字明石に生まれる
- （現加悦町）
- 桑飼村立桑飼國民學校に入學。在學中、四五年八月に日本の敗戦。四九年三月、桑飼小學校修了
- 四か町村による組合立加悦中學校に入學。入學時は校舎が無く、大きな町工場を借りて授業をしていた。ほどなく急造の木造校舎ができあがった。五二年三月同中學校を修了
- 京都府立加悦谷高等學校に入學。同校は地元にはじめてできた高校で、定時制として出發し、五二年から定時制と全日制の併設にかわった。入學當時は校舎が不足し、木造を繼ぎ足していった。五五年三月同高等學校を修了
- 一九五二年 四月
- 大阪外國語大學中國語學科に入學。前半二年は高槻市内の木造舊兵舎。後半二年は大阪市内のコンクリート校舎。五九年三月同大學を修了
- 一九五五年 四月
- 東京都立大學大學院人文科學研究科に入學。中國文學を専攻。六一年三月同大學修士課程を修了（修論題目「胡風について」）
- 一九五九年 四月
- 同大學博士課程に入學。六二年一〇月就職のため同課程を退學
- 一九六一年 四月
- 同大學人文學部助手となる（六六年三月まで）
- 一九六二年十一月
- 須田眞理子と結婚する
- 一九六三年 四月
- 法政大學講師（非常勤）となる（七一年三月まで）
- 一九六七年 四月

- 一九六八年 四月 日中學院講師（非常勤）となる（七一年三月まで）
- 一九六九年 八月 日本教職員組合の團體に加わり、初めて中國を、二週間訪問する
- 一九七〇年 四月 早稻田大學講師（非常勤）となる（七一年三月まで）
- 六月 長女あゆ子誕生
- 一〇月 東京都立大學講師（非常勤）となる（七一年三月まで）
- 一九七一年 四月 早稻田大學文學部專任講師となる
- 一九七三年 三月 長男竜介誕生
- 一九七五年 四月 早稻田大學文學部助教授となる
- 一九七七年 四月 同大學第一文學部學生擔當教務副主任となる（七六年九月まで）
- 一九七八年 六月 同大學教員組合執行委員となる（七九年三月まで）
- 一九七九年 四月 北京語言學院（現北京語言大學）專家となる（八一年三月まで）。北京の四季を體驗し、冬季の乾燥に苦しむ
- 一九八〇年 四月 早稻田大學文學部教授となる
- 一九八二年一〇月 同大學第二文學部教務擔當教務主任となる（八四年九月まで）
- 一九九二年 七月 同大學評議員となる（九六年六月まで）
- 一〇月 同大學第二文學部長となる（九四年九月まで）
- 一九九六年 七月 日本老舎研究會代表委員となる（〇二年七月まで）
- 二〇〇〇年 四月 復旦大學交換研究員となる（〇一年三月まで）。上海の四季を體驗
- 二〇〇四年 四月 財團法人大學基準協會相互評價委員となる（〇六年三月まで）
- 二〇〇六年 三月 早稻田大學文學部教授を退職

早稲田大學在職中、非常勤講師として東京大學（三年間）、東京學藝大學（二年半）、日本大學（二年間）、九州大學（集中）、東京都立大學（半年）に出講する

杉本達夫教授著作目録

論 文

『日中戦期 老舎と文藝界統一戦線』

東方書店 二〇〇四年二月

『『讀荀子』と『荀子斷』』

東京都立大學『人文學報』五三 一九六六年 三月

『文藝大衆化論の展開』

龍溪書舎『目加田誠博士古稀記念 中國文學論集』 一九七四年一〇月

『「俗語」と「新文語」』

論文集刊行委員會『大野實之助博士古稀記念 中國文學論文集』 一九七五年 一月

『香港『大公報』『文藝』のこと』

『中國文學研究』一期 一九七五年二月

『抗戦前期の沈滞と昂揚―香港『大公報』『文藝』に關する補足』

『中國文學研究』二期 一九七六年二月

『文藝上の『民族形式』をめぐる論議』

『中國文學研究』三期 一九七七年二月

『胡風集團の成立』

『中國文學研究』四期 一九七八年二月

『題材論の推移』

『早稻田大學大學院文學研究科紀要』二四輯 一九七九年 三月

『文協と老舎についてのノート』

『中國文學研究』五期 一九七九年二月

『老舎と抗戦劇』

『中國文學研究』六期 一九八〇年二月

『抗戦期における作家生活保障運動』

『中國文學研究』七期 一九八一年二月

『ある日の魯迅記念會』

『中國文學研究』八期 一九八二年二月

『老舎と戦争』

『中國文學研究』九期 一九八三年二月

- 「老舎の長篇詩『劍北篇』のこと」
 「文協の成立」
 「文協の財政と老舎」
 「文協の分會」
 「老舎と抗日戰爭」
 「文協發足時の諸文書について」
 「文協的分會」（「文協の分會」の李家平による譯）
 「政治と文學の間—王蒙」
 「文革以後の文學について」（講座記録）
 「昏迷の中の中國と新しい文學」
 「老舎の西北旅行—ふたたび『劍北篇』をめぐって」
 「老舎の有声的吶喊与无声的吶喊」
 「有声的吶喊与无声的吶喊」
 「片隅の市民から憂國の士へ—『浮城』がもたらした梁曉聲の變貌」
 「他・牠・它—『微神』の中のある代名詞について」
 「抗日戦期の老舎と胡絮青夫人」
 「老舎在抗战文学运动中所起的作用」
 「老舎の死をめぐる斷想Ⅰ」
 「老舎の死をめぐる斷想Ⅱ」
 「『桃李春風』と一九四三年の老舎」
- 東方書店『伊智地・辻本兩教授退官記念論集』
 『中國文學研究』一〇期 一九八三年二月
 『中國文學研究』一期 一九八四年二月
 『中國文學研究』二期 一九八五年二月
 『中國文學研究』二期 一九八六年二月
 『早稻田大學大學院文學研究科紀要』三三輯 一九八八年三月
 『早稻田大學大學院文學研究科紀要』二二號 一九八八年三月
 『早稻田大學大學院文學研究科紀要』八九年四期 一九八九年一月
 岩波書店『文學藝術の新潮流』岩波講座現代中國五 一九九〇年一月
 早稻田大學社會科學研究所『社會科學討究』一〇七 一九九一年八月
 文藝春秋社『文學界』三月號 一九九二年二月
 東方書店『相浦泉先生追悼中國文學論集』 一九九二年二月
 『早稻田大學大學院文學研究科紀要』三八輯 一九九三年三月
 北京作家出版社『中國現代文學研究叢刊』九三年二期 一九九三年五月
 『中國文學研究』二期 一九九六年二月
 『中國文學研究』二二二期 一九九八年二月
 東方書店『二三十年代中國と東西文藝』 一九九八年二月
 『中國文學研究』二四期 一九九八年二月
 韓國中國語文研究會『中國語文論叢』一五輯 一九九八年二月
 『早稻田大學大學院文學研究科紀要』四七輯 二〇〇二年三月
 『早稻田大學大學院文學研究科紀要』四八輯 二〇〇三年三月
 『中國文學研究』二九期 二〇〇三年二月

翻譯

『荀子』（中國の思想）四 七三年一月第二版 九六年六月第三版）

『毛澤東の考え方』（西野廣祥と共編譯）

徳間書店 一九六四年 九月
徳間書店 一九六六年一月

老舍『駱駝祥子』（『河出世界文學全集』二二所收）

人民文學出版社五五年版による 市川宏と共譯）

河出書房新社 一九六八年一月

老舍『駱駝祥子』（『現代中國文學四―老舍・巴金』所收 市川宏と共譯）

河出書房新社 一九七〇年十一月

胡風『文藝問題に對する意見』（『現代中國文學二―評論・散文』所收 牧田英二と共譯）

河出書房新社 一九七一年一月

司馬遷『史記―王者の條件』（市川宏と共編譯 八七年一月改訂増補版 二〇〇五年一月文庫版）

徳間書店 一九七二年 六月

施耐庵『水滸傳』（上）（青少年少女のための中國古典文學一 中村憲と共譯）

さ・え・ら書房 一九七七年 六月

施耐庵『水滸傳』（下）（青少年少女のための中國古典文學二 中村憲と共譯）

さ・え・ら書房 一九七七年 九月

（このシリーズは産經新聞社による兒童出版文化賞大賞を受賞）

老舍『駱駝祥子』（『世界文學全集』四五所收 初版テキストによる譯）

學習研究社 一九七八年 六月

鄧雲郷『北京の風物―民國初年』（井口晃と共譯）

東方書店 一九八六年 七月

古華『芙蓉鎮』（現代中國文學選集二 和田武司と共譯）

徳間書店 一九八七年一月

朱曉平『縛られた村』（新しい中國文學六）

早稻田大學出版部 一九九四年 四月

（このシリーズにより、早稻田大學出版部が日本翻譯出版文化賞を受賞）

『綠樹は生い繁る』（四川省新繁縣新民人民公社史『綠樹成蔭』より抜粹『中國現代文學選集』一八所收）

平凡社 一九六二年 四月

- 王汶石「夏の夜」(『現代中國文學一―短編集』所收) 河出書房新社 一九七一年 六月
- 王愿堅「七根火柴(七本のマッチ)」(一)(對譯) 大修館書店『中國語』四月號 一九七〇年 四月
- 王愿堅「七根火柴(七本のマッチ)」(二)(對譯) 大修館書店『中國語』五月號 一九七〇年 五月
- 艾蕪「瞎子客店(めくら宿)」(一)(對譯) 大修館書店『中國語』八月號 一九七〇年 八月
- 艾蕪「瞎子客店(めくら宿)」(二)(對譯) 大修館書店『中國語』九月號 一九七〇年 九月
- 艾蕪「瞎子客店(めくら宿)」(三)(對譯) 大修館書店『中國語』一〇月號 一九七〇年一〇月
- 楊瑞池「掌握海島上生產蔬菜的規律」(一)(譯注) 大修館書店『中國語』一月號 一九七二年 一月
- 楊瑞池「掌握海島上生產蔬菜的規律」(二)(譯注) 大修館書店『中國語』二月號 一九七二年 二月
- 楊瑞池「掌握海島上生產蔬菜的規律」(三)(譯注) 大修館書店『中國語』三月號 一九七二年 三月
- 秋士「文學を研究する青年に告ぐ」(『資料世界プロレタリア文學運動』一卷所收) 三一書房 一九七二年 九月
- 鄭中夏「新詩人への大喝」(同右) 三一書房 一九七二年 九月
- 惲代英「文學と革命(通信)」(同右) 三一書房 一九七二年 九月
- 郭沫若「藝術家と革命家」(同右) 三一書房 一九七二年 九月
- 郭沫若「藝術家の覺醒」(同右) 三一書房 一九七二年 九月
- 瞿秋白「プロ大衆文藝の現實問題」(『資料世界プロレタリア文學運動』四卷所收) 三一書房 一九七三年 九月
- 瞿秋白「大衆文藝の問題」(同右) 三一書房 一九七三年 九月
- 茅盾「問題のさなかの大衆文藝」(同右) 三一書房 一九七三年 九月
- 瞿秋白「再び大衆文藝を論じて止敬に答える」(同右) 三一書房 一九七三年 九月
- 魯迅「这也是生活……」(一)(譯注) 大修館書店『中國語』八月號 一九七四年 八月
- 魯迅「这也是生活……」(二)(譯注) 大修館書店『中國語』九月號 一九七四年 九月

- 魯迅「這也是生活……」(三)(譯注) 大修館書店『中國語』一〇月號 一九七四年一〇月
- 魯迅「這也是生活……」(四)(譯注) 大修館書店『中國語』十一月號 一九七四年十一月
- 潘漢年「左翼作家連盟の意義とその任務」(『資料世界プロレタリア文學運動』三卷所收) 三一書房 一九七五年六月
- 李平ほか「無產文藝クラブ發起趣意書」(同右)
- プロ詩社「プロ詩社成立宣言」(同右)
- 左翼作家連盟「國民黨による同志虐殺に關し、各國革命文學、革命文化團體、および人類進歩のために活動するあらゆる著作家、思想家におくる書」(同右)
- 左翼作家連盟「國際無產階級および勤勞民衆の文化組織に告ぐる書」(同右)
- 中國左翼演劇家連盟「中國左翼演劇家連盟の最近の行動綱領」(同右)
- 左翼作家連盟執行委員會「無產階級作家、革命作家、および文藝を愛好するすべての青年に告ぐ」(同右)
- 日本プロレタリア作家同盟「日本プロレタリア作家同盟からの答辭」(同右)
- 國際革命作家同盟「國際革命作家同盟の中國無產文學に關する決議案」(同右)
- 中國左翼作家連盟執行委員會「中國無產階級革命文學の新任務」(同右)
- 白燁編「建國以來の人間性をめぐる論争の情況」 中國研究所『中國研究月報』四〇二 一九八一年八月
- 楊仁愷「葉茂臺第七號遼墓出土の古畫に關する考察」 國華社『國華』一〇八〇號 一九八五年二月
- 高曉聲「陳奐生町へ行く」 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷一號 一九八七年五月
- 梁曉聲「不可思議な大地―北大荒」 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷二號 一九八七年七月
- 邵振國「出稼ぎ」(上) 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷三號 一九八七年一〇月
- 邵振國「出稼ぎ」(下) 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷四號 一九八八年二月
- 何凱旋「レンガ造りの作業場で」 大修館書店『中國語』七月號 一九八八年七月

- 馮苓植「王鳥の座―鳥は飼い主に似る」(一)
 馮苓植「王鳥の座―鳥は飼い主に似る」(二)
 馮苓植「王鳥の座―鳥は飼い主に似る」(三)
 朱曉平「金斗」
 朱曉平「臺地に麥實るとき」
 朱曉平「ひそやかに川は流れる」
 梁曉聲「父」
 王蒙「カナダの月」
 王蒙「海の夢」
 廉聲「開眼供養」
 劉紹棠「青藤横丁ものがたり」
 梁曉聲「母」
 雷建政「孤城」
 李國文「孤獨」
 張冀雪「息子」
 梁曉聲「黒いボタン」
 陳建功「放生―よもやま話・その六」
 張焯「親不孝の息子へ」
 老舍「一封家信」(一)(譯注)
 老舍「一封家信」(二)(譯注)

- 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷六號 一九八八年 七月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷七號 一九八八年一〇月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷八號 一九八九年 一月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷九號 一九八九年 四月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷一〇號 一九八九年 七月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷一二號 一九九〇年 一月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷一三號 一九九〇年 四月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷一五號 一九九〇年一〇月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷一六號 一九九一年 一月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷一九號 一九九一年 八月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷二一號 一九九二年 四月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷二七號 一九九三年一〇月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷二九號 一九九四年 四月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷三一號 一九九四年一〇月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷三三號 一九九五年 四月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』一卷三四號 一九九五年 七月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』二卷三號 一九九七年 四月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』二卷四號 一九九七年 四月
 蒼蒼社『季刊中國現代小説』二卷五號 一九九七年 五月
 內山書店『中國語』五月號

老舍「一封家信」(三) (譯注)

內山書店『中國語』六月號 一九九七年 六月

老舍「一封家信」(四) (譯注)

內山書店『中國語』七月號 一九九七年 七月

張煒「池」

蒼蒼社『季刊中國現代小説』二卷一三號 一九九九年一〇月

遲子建「ナミダ」

蒼蒼社『季刊中國現代小説』二卷二〇號 二〇〇一年 七月

書評

王蒙作・相浦泉譯『胡蝶』への書評

中國研究所『中國研究月報』四一〇 一九八二年 四月

黎波譯『老舍珠玉』への書評

中國研究所『中國研究月報』四二三 一九八三年 五月

駒田信二『言葉と鉄』への書評

東方書店『東方』七三號 一九八七年 四月

竹内實・萩野脩二編『中國文學最新事情』への書評

中國研究所『季刊中國研究』八號 一九八七年 九月

「たゆまぬ歩みが生んだ貴重な一冊」(萩野脩二『中國新時期文學論考』への書評)

東方書店『東方』一八〇號 一九九六年 三月

賈平凹著・吉田富夫譯『廢都』への書評

內山書店『中國圖書』八卷七月號 一九九六年 七月

「死から浮かび上がるもろもろの事―傳光明編『老舍之死採訪實錄』について」

日本老舍研究會『老舍研究會會報』一四號 二〇〇〇年 七月

「日中經濟最前線の息づかい」(信太謙三・杉野光男編著『日本の常識は中國の非常識』への書評)

外交知識普及會『時事評論』七月號 二〇〇二年 七月

「張桂興編『老舍全集』補正』の意義」

日本老舍研究會『老舍研究會會報』一六號 二〇〇二年 七月

「文學に生きる人々の聲を聞く」(林建法・傳任選編『中國當代作家面面觀』への書評)

東方書店『東方』二六三號 二〇〇三年 一月

辭書

『デイリーコンサイス中日辭典』(古屋昭弘、牧田英二と共編)

(『毎日精選中日辭典』として臺北大新書局より二〇〇〇年に出版される)

三省堂 一九九八年 四月

(『实用漢日詞典』として北京外研社より二〇〇〇年に出版される)

『デイリーコンサイス中日辭典』(共編 中型版)

三省堂 一九九八年 四月

『デイリーコンサイス中日・日中辭典』(共編)

三省堂 一九九九年 二月

(日中部分が『日漢詞典』として北京外文出版社より二〇〇二年に出版される)

『デイリーコンサイス中日・日中辭典』(共編 中型版)

三省堂 二〇〇〇年 四月

(『日漢日詞典』として北京外研社より二〇〇二年に出版される)

『デイリーコンサイス中日辭典』(共編 第二版)

三省堂 二〇〇五年 一月

『デイリーコンサイス日中辭典』(共編)

三省堂 二〇〇五年 一月

『デイリーコンサイス中日・日中辭典』(共編 第二版)

三省堂 二〇〇五年 一月

『デイリーコンサイス中日辭典』(共編 中型版 第二版)

三省堂 二〇〇五年 二月

『デイリーコンサイス中日・日中辭典』(共編 中型版 第二版)

三省堂 二〇〇五年 二月

随想・時評・その他

『句集上海隨想大陸の追憶』

同學社 二〇〇六年 三月

- 「中國」と「中國語」(座談會記錄)
 「四月の感想」(隨想)
 「激動の中の哀歌―心に残る作品 茹志鵬「春暖時節」」(隨想)
 「リズムがおかしい」(隨想)
 「須田禎一譯『郭沫若詩集』のための解説」
 「中國の一年(映畫・演劇)」(時評)
 「ある悲劇」(隨想)
 「中國の一年(映畫・演劇)」(時評)
 「天山山麓のデイスコダンス」(隨想)
 「記録への執念のこと」(時評)
 「月見と突撃」(隨想)
 「質屋の話」(隨想)
 「芙蓉鎮」の時代背景(解説)
 「下放世代の作品」(時評)
 「國民性批判」の文學(時評)
 「革命中國と革命を逃れた人々」(解説)
 「都市に戻った下放青年たち」(時評)
 「古本を買う話」(隨想)
 「改革作家」の變貌(時評)
 「出國の夢と小説」(時評)
- 大修館書店『中國語』一月號 一九六九年一月
 龍溪書舎『龍溪』六號 一九七三年六月
 大修館書店『中國語』五月號 一九七四年五月
 『集報』一輯 一九七六年三月
 雄渾社『郭沫若全集』五 一九七七年七月
 大修館書店『中國語』三月號 一九八〇年三月
 『集報』五輯 一九八〇年三月
 大修館書店『中國語』三月號 一九八一年三月
 『早稻田大學文學部報』一一號 一九八一年一月二五日
 『早稻田文學』一一月號 一九八一年一月
 『早稻田大學文學部報』一二號 一九八二年一月二五日
 節令社『節令』四期 一九八三年一月
- 岩波ホール『EQUIPE DE CINEMA』八八 一九八八年三月
 文藝春秋社『文學界』一一月號 一九八八年一月
 文藝春秋社『文學界』一二月號 一九八九年二月
 東寶『Chanter Cine 1』一七號 一九九〇年九月
 文藝春秋社『文學界』二月號 一九九〇年二月
 『集報』一六輯 一九九一年三月
 文藝春秋社『文學界』二月號 一九九二年一月
 文藝春秋社『文學界』一月號 一九九二年一月

- 「老舎國際學會參加記」(報告) 東方書店『東方』一四五號 一九九三年 四月
- 「十年一日のごとく」(隨想) 早稻田古書店街『古本共和國』一〇號 一九九五年一〇月
- 「革命の光と影」とりのこされた子供たち」(解説) 大映東光徳間 映畫『レッドチェリー』プログラム 一九九五年一月
- 「松枝先生を偲ぶ」(隨想) 『集報』二二輯 一九九六年 三月
- 「中國語」(案内) 早稻田大學語學教育研究所『外國語の手引き』 一九九六年 四月
- 「近代の光と混沌の闇」(解説) 東寶 映畫『上海ルージユ』プログラム 一九九六年 五月
- 「初めての訪中」(隨想) 咲耶七華會『咲耶七華』一號 一九九六年 六月
- 「回覽誌からぼけの花へ」(隨想) 咲耶七華會『咲耶七華』二號 一九九六年二月
- 「賣れない話」(隨想) 咲耶七華會『咲耶七華』三號 一九九七年 六月
- 「作家と糧道」(隨想) 東方書店『東方』二〇〇號 一九九七年一月
- 「ある師のこと」(隨想) 咲耶七華會『咲耶七華』四號 一九九七年二月
- 「胡絮青夫人の決斷」(隨想) 霞山會『東亞』一月號 一九九八年 一月
- 「書畫を頂戴する話」(隨想) 同學社『TONGXUE』一五號 一九九八年 二月
- 「中國現代作家評傳」のうち「劉心武」「梁曉聲」「王蒙」「張焯」(項目執筆) 大修館書店『しにか』四月 一九九八年 四月
- 『『デイリーコンサイス中日辭典』のこと―山椒の小粒の味のほど』(隨想) 三省堂『ぶつくれつと』五月號 一九九八年 五月
- 「辭書のことなど」(隨想) 咲耶七華會『咲耶七華』五號 一九九八年 七月
- 「星降るはずの夜の連想」(隨想) 咲耶七華會『咲耶七華』六號 一九九八年二月
- 「月は東に日は西に」(隨想) 東久留米稻門會『杜の西北』五號 一九九九年 三月
- 「けっちゃん」(隨想) 咲耶七華會『咲耶七華』七號 一九九九年 六月
- 「老舎生誕百周年記念『第二回老舎國際學會』のこと」(報告) 東方書店『東方』七月 一九九九年 七月

- 「怒れるや」(隨想)
「ゴムエーサー」(隨想)
「丹後と丹波と鬼退治」(隨想)
「合羽からげて」(隨想)
「老舎が残した未完の長篇 創作を加え上海で初上演」(時評)
「上海描く王安憶に特別表彰」(時評)
「古書市の老舎のことなど」(隨想)
「人氣作家悩ます文革の傷跡」(時評)
「波紋呼ぶ魯迅の私生活研究」(時評)
「大陸の冬―北京の卷その一」(隨想)
「農村で暮らす韓少功」(時評)
「ブニガク」の「タニサク」(隨想)
「緑のスリッパ」(隨想)
「カラスの行方」(隨想)
「大陸の夏―ウルムチの卷」(隨想)
「活力ます」記録する精神」(時評)
「小説：讲述有意思的故事―中日学者关于中国当代小说的对话」(楊劍龍氏との對談)
「叢書『續修四庫全書』が完成」(時評)
「大陸の秋―濟南の卷」(隨想)

- 『朝日新聞』(東京) 夕刊 一九九九年七月一三日
 咲耶七華會『咲耶七華』八號 一九九九年一月二日
 咲耶七華會『咲耶七華』九號 二〇〇〇年六月
 咲耶七華會『咲耶七華』一〇號 二〇〇〇年一月二日
 『朝日新聞』(東京) 夕刊 二〇〇一年一月一九日
 『朝日新聞』(東京) 夕刊 二〇〇一年四月六日
 『朝日新聞』(東京) 夕刊 二〇〇一年七月
 日本老舎研究會『老舎研究會會報』一五號 二〇〇一年七月
 『朝日新聞』(東京) 夕刊 二〇〇一年八月三日
 『朝日新聞』(東京) 夕刊 二〇〇一年九月二八日
 咲耶七華會『咲耶七華』一二號 二〇〇一年一月二日
 『朝日新聞』(東京) 夕刊 二〇〇二年一月四日
 内山書店『中國語』四月號 二〇〇二年四月
 内山書店『中國語』五月號 二〇〇二年五月
 内山書店『中國語』六月號 二〇〇二年六月
 咲耶七華會『咲耶七華』一三號 二〇〇二年六月
 『朝日新聞』(東京) 夕刊 二〇〇二年六月一四日
 貴州省作家協會『山花』七期 二〇〇二年七月
 『朝日新聞』(東京) 夕刊 二〇〇二年八月一六日
 咲耶七華會『咲耶七華』一四號 二〇〇二年一月二日

- 「川舟に降りくる吳語の春の歌」(隨想) 『集報』二八輯 二〇〇三年 三月
- 「大陸の春―北京の卷」(隨想) 咲耶七華會『咲耶七華』一五號 二〇〇三年 六月
- 「國訛りと普通話」(隨想) 同學社『TONGXUE』二六號 二〇〇三年 九月
- 「たそがれのつぶやき」(隨想) 咲耶七華會『咲耶七華』一六號 二〇〇三年 二月
- 「魯迅『狂人日記』―中國近代文學の誕生」(講義記錄) 早稻田大學第二文學部文學・言語系專修『文學のショーケース』二〇〇四年 三月
- 「雄渾社版『郭沫若選集』のこと」(隨想) 『郭沫若研究會報』四號 二〇〇四年 五月
- 「大陸の追憶―落穂その一」(隨想) 咲耶七華會『咲耶七華』一七號 二〇〇四年 六月
- 「大陸の追憶―落穂その二・雪のはなし」(隨想) 咲耶七華會『咲耶七華』一八號 二〇〇四年 二月
- 「大陸の追憶―落穂その三・圖書館と雜誌賣り場」(隨想) 咲耶七華會『咲耶七華』一九號 二〇〇五年 六月
- 「作品の力と壽命のこと―『屈原』『四世同堂』『寒夜』にふれて」(隨想) 『郭沫若研究會報』七號 二〇〇五年 一〇月
- 「屋上庭園からの眺め」(隨想) 咲耶七華會『咲耶七華』二〇號 二〇〇五年 二月
- 「『わたしたちの櫻』―所澤キャンパスからの散歩道」(隨想) 『集報』三一輯 二〇〇六年 三月